

seito & neighborhood journal

KUR PALACE YUYU

せんとろと まち新聞



北区の 記憶あつめ編 Vol.6

クアパレスゆうゆう

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんとろとまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へとつなげることを目指しています。

CONTENTS クアパレスゆうゆう紹介/記憶地図/住民かく語りき



戦後復興とともに 発展を遂げてきた 複合型銭湯のエンタメ精神

滝野川西地区は 空襲で焼け野原に

「父は新潟出身で、東京の築地や柳橋の銭湯で丁稚奉公をしていた。その時の店主(親方)が柳橋の銭湯で奉公をしていた母と父の縁を取り持ち、戦前、今の場所にあった『朝日湯』という銭湯を買って、営業を開始したのが始まり」...

推移し、1955年頃には近所の土地を購入し、「越の湯」(昭和の終わり頃に廃業を再開した。)

その粘り強さを雪子さんたちもすっかりと受け継いだ。雪子さんは元銀行員の夫と二人三脚で多角経営に挑戦し、1995年には建物をビルに改修。1階に銭湯「クアパレスゆうゆう」、2階にレストランと貸しホール「雪ホール」を開設し、3階以上をマンションとして活用することにしたのだ。

「よく言った夫が数字に明るくて、しっかりと管理してくれたから、私は好きなことに取り組むことができた。特に社交ダンスは若い頃から好きでダンス教師の資格も持つており、今も週に数回、雪ホールで教室を開いている」と雪子さんは笑顔を見せる。ちなみに、雪ホールでは社交ダンスイベントなども定期的に開催している他、地域住民がさまざまな用途で活用しているという。また、2階のレストランスペースには俳優の鼓太郎さんが経営する「Lamia Via (ラミアアビータ)」というイタリアンの店が入っており、地域



美味しいイタリアンが風呂上がりにも楽しめる。

住民や風呂上がりのお客さんに好評だとか。



「雪ホール」にて華麗に踊る高波雪子さん。

細やかな心遣いで ゆったりと寛げる空間

レクリエーションに食にと、まさにスーパース銭湯や健康ランドを先取りしたようなライオンアップだが、井戸水を使った風呂も常連の間で根強い人気を誇っている。「ありがたいことに『いろんな銭湯を巡ったけど、この水が一番。肌を馴染む』と言ってくれるお客さんもいる」と雪子さん。また、風呂場には大画面のテレビまで設置されており、なかには湯船に浸かりながらのんびりとスポーツ観戦を楽しむお客さんもいるそう。サウナはもちろん、ラジウムの露天風呂や電気風呂など、さまざまなタイプの風呂を楽しめるのもうれしい。何でもサウナは昨今のブーム以前から人気があり、新旧の客がこぞって汗を流している。

多角経営で景気の荒波を乗り越えてきたクアパレスゆうゆう。そのエンターテインメント精神はこれからも地域を明るく照らしてくれるだろう。



蛇口にはアンモナイトなどの凝った意匠が施されている。

せんとろ情報 SENTO DATA クアパレスゆうゆう



クアパレスゆうゆう 東京都北区滝野川7-11-8 (JR埼京線「板橋駅」から徒歩1分) 13:30~24:00 定休日:金(1月1日、3日は休業)

フロント 露天風呂 サウナ 水風呂 ランドリー

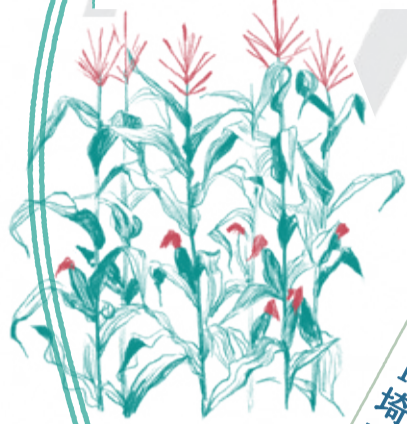
※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

● 現在も営業中 ● 閉店

トウモロコシ畑

空襲で家を失った人たちは、バラックを建て野菜を植え生活していたそうだ。JR板橋駅のあたりは早く育つトウモロコシ畑も多くあったという。カサカサと揺れるトウモロコシの葉が思い出深いという人たちの。



焼け野原の風景

戦争中の空襲によって、赤い破線より西南側は焼け野原だった。遠くの大塚の方まで見渡せるほど辺り一帯に何もなく、煙突だけが見えたという。

OKINAWAN CAFE・COZA

大衆喫茶きよの

クアパレスゆうゆうの元番頭さん行きつけの大衆喫茶。この稲荷寿司が特に好きだったそうだ。きよのの元女将さんもクアパレスゆうゆうの常連である。



提供:三浦礼子

カトレア

腹巻きをしているのは大衆喫茶きよのの初代店主。その娘さんが近所でカトレアという洋品店を営んでいた。



提供:三浦礼子

滝野川
フレイムス

笹子(居酒屋)

Lamia Vita

新井勘二商店

駄菓子屋

ライスFTビル

北谷端公園

クアパレスゆうゆう

戦前から現在に至るまで、長くこの地域の人々の身も心もあたたためてきた。約70年ここで働き続けた元番頭さんは、初代店主高波俊一さんのことを「じさ」「親方」と呼び慕い、よく仕事終わりに一緒に飲みを繰り出していたそう。

三味線教室

三味線教室があり、風呂上がりに外に出ると「チントンシャン」と三味線の良い音色が夕焼け空に響いていたという。

コモディイイダ
滝野川店別館

コモディイイダ
滝野川店別館

クアパレスゆうゆう編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう!

コモディイイダ

コモディイイダがまだ飯田百貨店という名前だった頃、クアパレスゆうゆうでは商品の梱包に使われていた菓をもらい、それを燃やして湯を沸かしていたこともあったそう。



提供:北区飛鳥山博物館

住民かく語りき

クアパレスゆうゆう周辺

わたしのせんととうとまち

— 北区の記憶あつめVol.6クアパレスゆうゆう —

12月16日、記憶集めトークイベントが実施された。これはクアパレスゆうゆう周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。常連をはじめとした参加者に思い思いに語り合ってもらった。

まず話題に上がったのは戦後すぐの風景について。「クアパレスゆうゆうがある坂下のあたりは焼け野原だったが、坂上の滝野川銀座周辺は被害が少なく、華やかに栄えていた。暮らしても坂上の方が豊かで、坂の上と下で天と地ほどの差があった」といった思い出が語られた。

また、当日は高波家と同郷の新潟県生まれで、クアパレスゆうゆうに70年ほど勤務したという元番頭さんも参加。昔は三助としてやはり背中流しなどもしていたそう。当時流しはある大俳優が板橋駅の近くに住んでいて、背中を流したことがある。「多い時は1日に60、70人の背中を流していた」「女性客からも背中を流してほしいと頼まれることが多かった」「お客さんは石鹸箱の中にお金を入れて風呂場に入り、背中を流す前にそのお金を取っていった」「仕事が終わるのは深夜だったが、背中流しで得たお金で、親方と一緒に常連さんのお店など近所のいろんな飲み屋に出かけていた」といった貴重な話を聞くことができた。

また、薪で風呂を沸かしていた頃は「夏は藁やおが屑、冬は廃材を薪にして燃やすことが多かった」「正月は鉄道会社から掃除でた石炭の余りをもらって燃料にしていた」といった話まで持ち上がり、その場にあった現役スタッフさんも興味津々だった。ちなみに現役スタッフさんは銭湯の仕事の傍らDJとしても活躍しているそう。

今回は長年勤めた元番頭さんと現役の若いスタッフさんが語らう場となり、縁をつなぐ機会にもなった。はたして、次回はどんな記憶や出会いが紡がれるだろうか。

「好きを仕事に結び付ける女将ならではの仕事術」
— 高波雪子さん(クアパレスゆうゆう2代目女将) —

クアパレスゆうゆうに遊びに来てね!



COMMENT

私は高校生の頃からずっと社交ダンスが大好きでした。かといって、昔はダンスを思い切り練習できる場所がなかったため、銭湯の定休日に仲間を集めて、脱衣場で練習したものです。今も社交ダンスは私の生きがいです。夫に頼み込んでつくった貸しホールには、今も昔の教え子たちが来てくれるし、空いている時は地域の人がフラダンスや子もたのみのイベントなどに活用してくれています。こうやって自分の「好き」を仕事に結び付けられている私は、本当に幸せものだと思っています。あと、ちょっと昔の話ですが、実は銭湯経営の環境改善に取り組んだことがあるんです。銭湯は昔、防犯上の理由から番台の設置が義務付けられていたんですが、番台に立つのが恥ずかしいと言って、人手を集めるのが難しい時期が続いていました。そこで、思い切って都庁に陳情し、番台側からお客さんの様子がチェックできることを条件に、今の受付のスタイルが認められるようになったのです。そういった運動をともにした女将さんたちとは、今も「パール会」と称して集まりで、食事会などを楽しんでいます。この集まりの時は服装のどこかにパールを着けるのがお約束で、良い息抜きになっています。現在、銭湯の経営は3代目女将と4代目夫婦に任せていますが、これからは明るく楽しい銭湯であり続けてほしいですね。



Photo / Mari Okamoto



発行: 一般社団法人 せんととうとまち

代表理事: 栗生はるか 理事: サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー: 福井彩香 / 渡邊勢士

編集・執筆: 熊本鷹一 グラフィック: 株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力: 東京都北区浴場組合

北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当: 北区政策経営部シニアプロモーション推進担当課)にて制作。

一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi

